第1代 光遠院慧空

34『古事記伝』 1冊

紙本印刷 江戸~明治時代 大谷大学図書館蔵

護法場で教授された、真宗・仏教学以外の学問である外学のテキスト類の一つ。国学者本居宣長による『古事記』の注釈書。古代日本を知るためには『古事記』を正しく解読する必要があるとの考えによって著された。

35『論語』 1冊

紙本印刷 江戸~明治時代 大谷大学図書館蔵

護法場で教授された、真宗・仏教学以外の学問である外学のテキスト類の一つ。孔子の言行や門人との対話を記したもので、内容は処世の道理、 国家・社会的倫理に関する教訓、政治論、門人の孔子観など多岐に渡る。 四書の一つで、儒教の根本文献とされる。

36『須弥界義』 1冊

紙本印刷 江戸時代 大谷大学図書館蔵

護法場で教授された、真宗・仏教学以外の学問である外学のテキスト類の一つ。霊遊著。霊遊は江戸時代後期の高倉学寮で学んだ学僧で、西洋 天文学に対し、仏教の立場から須弥山説を擁護し、「須弥界図説」「日月 西行觖」などを著した。

37『厳如上人御一代記』 11冊のうち

紙本墨書 江戸~明治時代 大谷大学図書館蔵

弘化3年(1846)から明治15年(1882)までの東本願寺宗門の動向を、 諸資料により編年に記したもの。編者は不明だが、本書は佐々木月樵の 書写になる。当時の学寮の動向も詳しく記されている。

38 闡彰院空覚の蓑 1枚

蓑 江戸~明治時代

護法場を統括した闡彰院空覚(1804~71、伏見西方寺)が使用していた遺品の蓑。空覚は、その改革姿勢をもって知られた。

39「剣先の図」 1舗

紙本墨書 江戸時代

文化5年(1808) に建立された嗣講寮の図。その形状から「剣先寮」 と称された。明治4年(1871)10月、空覚はこの剣先寮において何者 かによって殺された。

2015年度の展覧会〈予定〉※都合により変更する場合があります。

夏季企画展 東アジアの歴史と文化(仮)

2015年6月9日 医一8月2日 回

秋季企画展 大谷大学博物館の逸品―重要文化財「化度寺故僧邕禅師舎利塔銘」「信行禅師興教碑」 拓本 [実習生展併催]

京都・大学ミュージアム連携

2015年9月8日 2015年9月26日 三

冬季企画展 京都を学ぶ―住田智見(仮)

2016年1月6日丞—2月13日国

特別展 生誕600年—蓮如(仮)

2015年10月10日 三 一 11月28日 三



大谷大学博物館

Otani University Museum

〒603-8143 京都市北区小山上総町 Tel.075-411-8483 Fax.075-411-8146 http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/





| 1 | 大館日 | 日・月曜日、祝日(ただし4/29 は開館) | 中前10時~午後5時 (入館は閉館の30分前まで) | 無料

2015

Otani University Museum

大谷大学の前身である東本願寺の「学寮」は、

寛文5年(1665)に渉成園(枳殻邸)に創設されました。

本年はこの創設から350年にあたります。

学寮は、近世における宗学形成の場として、

また広く寺院子弟への教学教育の場として隆盛しました。

本展覧会は、「学寮の創設と高倉移転」「高倉学寮講師と近世宗学の形成」

「護法場の開設」の3つのテーマによって構成しています。

大谷大学の前身を担った先学たちの

尊い営みの一端を感じていただければ幸いに存じます。



| | 学寮の創設と高倉移転

01「琢如上人像」 1幅

紙本著色 江戸~明治時代

東本願寺 14 代宗主。承応 2 年(1653) に継職した。寛文 4 年(1664) 渉成園(枳殻邸)に退隠、翌5年に学寮を創設し教学の振興を図った。

02「高木宗賢(平野屋五兵衛)像」 1幅

紙本著色 汀戸~明治時代

大坂の有力な両替商。延宝5年(1677)渉成園(枳殻邸)西北隅に学 寮の講堂が建立された際、経蔵1棟を寄進した。

03「東本願寺御境内町絵図」 1幅

紙本淡彩 江戸時代

学寮の位置が示された最も古い絵図。大谷大学の前身である東本願寺学 寮は寛文5年(1665)に東本願寺寺内に創設され、やがて延宝6年(1678) に渉成園(「御隠居御屋鋪」)の西側(右)に移転された。

04『高倉学寮諸制条』 1冊

紙本墨書 江戸~明治時代 大谷大学図書館蔵

学寮の創設から幕末にいたる高倉学寮の諸規則を集成した記録。14の 規則に加え、「入寮願」や「副講願」など願書の書式も記されている。 展示箇所は学寮創設時の規則「寛文年中御壁書之写」で、受講の心得が 記されている。

05 「慧然建議」写(『大学寮沿革記』) 1冊

紙本墨書 江戸~明治時代 大谷大学図書館蔵

宝暦4年(1754)、第2代講師慧然らが出した、学寮の設備・組織全般 に関する意見書。この建議をきっかけに、学寮は高倉通へ移転し、翌5 年新しい学寮が竣工した。所化寮に松・梅・桜などの名を付ける事、案 内役人の称号を定める事などを提案した。

06「高倉学寮敷地図」 1幅

紙本墨・朱書 江戸時代

高倉通魚棚に移転した学寮の敷地図。通りの名から高倉学寮と呼ばれた。 この地は現在の東本願寺高倉会館(京都市下京区)にあたる。本品は、 文化 10年 (1813) 頃の図と考えられる。

07『入寮制条』 1冊

紙本墨書 江戸~明治時代

冒頭に入寮所化(学生)が守るべき規則を掲げ、その後に入寮者本人の 承諾を示す署名と、宿屋名が記された名簿。寮内寮外ならびに他所にお いて酔狂してはいけない、などの生活規律が定められていた。

08「高倉学寮席札」 2点

木札 江戸~明治時代

高倉学寮知事の即印と、所化(学生)南冥の席札。いずれも裏面には「六 条御殿御学寮」の焼印が捺される。

09『夏安居日記』 1冊

紙本墨書 江戸時代

安居期間中の知事所事務日記。安居は、インドの雨季に釈尊の教団が勉 学に励んだことに由来する。学寮での教育は夏安居を中心に、講師・嗣講・ 擬講による講義で進められた。

10『春秋安居日記』 1冊

紙本墨書 江戸時代

安居期間中の知事所事務日記。安居は、インドの雨季に釈尊の教団が勉 学に励んだことに由来する。学寮での教育は夏安居を中心に、講師・嗣講・ 擬講による講義で進められた。のち夏講期間だけでは不充分として、春・ 秋安居が設けられた。

11 『上首寮日記』 5 冊のうち

紙木墨書 江戸~明治時代

高倉学寮の事務長とも言うべき上首が、文政6年(1823)から明治5 年(1872)まで書き継いだ学寮の日記。学寮の諸行事や建前の修繕、 所化(学生)の動向がうかがえる資料。

12 『高倉学寮御出入方名簿』 1冊

紙本墨書 江戸~明治時代

高倉学寮へ出入りする本屋・筆屋・衣屋・肴屋など様々な業者の名簿。 文化6年(1809)から明治5年(1872)まで書き継がれている。出人 方は出入頭である本屋西村九郎右衛門・筆屋中村忠兵衛の推挙をうける べき事など、業者にも様々な規則が設けられていた。

13『入寮著帳証印』 1冊

紙本墨書 江戸~明治時代

学寮に参集する僧の出身地を記した記録。所化(学生)は懸席年数や出 身国郡村名、宿所などを上首寮で記帳する規定となっていた。安政2年 (1855) から明治5年(1872)まで、計1560人分が記載されている。

14『越中国著隷名簿』 4 川のうち

紙木墨書 江戸~明治時代

学寮に参集する僧の出身国別にまとめられた名簿。夏安居の際に記帳さ れたもの。本書には越中国(現、富山県)出身者がまとめられている。

Ⅱ高倉学寮講師と近世宗学の形成

15「光遠院慧空像」 1幅

絹本著色 明治時代

正徳5年(1715)、初代講師に任命された慧空(1644~1721、京都西 福寺)の肖像。講師とは、学寮を統括・管理する、いわば学寮の長である。 慧空が講師に就く以前は、東本願寺の御堂の仏事一般を勤める御堂衆に よって学寮の教育・管理がなされていた。

16「香厳院慧然像」 1幅

絹本著色 明治~大正時代

第2代講師慧然(1693~1764、和泉国専称寺)の肖像。享保13年(1728) に任じられた。学寮の高倉魚棚移転・拡充に尽力した。

17「香月院深励像」 1幅

絹本著色 明治~大正時代

第5代講師深励(1749~1817、越前国永臨寺)の肖像。寛政6年(1794) に安居講師を勤める一方、各地に赴き布教をおこなうなど近世大谷派教 学の集大成、門弟の育成に尽力した。

18 『三帖和讃』 3冊のうち

紙本墨書 江戸時代 大谷大学図書館蔵

『三帖和讃』の諸本、羽州本 (酒田浄福寺本)・河州本 (八尾慈願寺本)・ 文明開版本など9本を校合したもの。深励のテキストに対する着目の繊 細さがうかがわれる資料である。

19 『垂天結社簿』 2冊のうち

紙本インク書 昭和時代 大谷大学図書館蔵

香月院深励門下の名簿。深励の出身地である越前をはじめとして、1264 名の門下が名を連ねる。深励が末寺僧侶の養成にいかほど力を注いだか がうかがえる。

20「圓乗院宣明像」 1幅

網本著色 明治~大正時代

第6代講師宣明(1750~1821、越中国開正寺)の肖像。深励が尾張 国の異安心事件で停職中の文化8年(1811)に講師職に就任。講師二 人体制の先例となった。

21「易行院法海像」 1幅

絹本著色 明治~大正時代

第8代講師法海(1768~1834、肥後国光徳寺)の肖像。文政11年(1828) に任じられた。彼が誕生した豊後国日田長福寺の学寮は、幕末の儒学者 広瀬淡窓 (1782~1856) を生むなど、宗派内外の学問興隆に寄与して いる。

22 「香樹院徳龍像」 1幅

絹本著色 明治~大正時代

第10代講師徳龍(1772~1858、越後国無為信寺)の肖像。弘化4年 (1847) に任じられた。徳行をもって知られ、文政6年(1823) の東 本願寺焼失後各地で布教し、募財活動に尽力した。

23 『香樹院教訓集』 1冊

紙本印刷 明治時代 大谷大学図書館蔵

香樹院徳龍の著。世俗倫理を著した学僧としては、江戸時代随一である。 本書は、徳龍の五十回忌に合わせて編集・発刊された。

24 『香樹院勤倹座談』 1冊

紙本印刷 大正時代

香樹院徳龍の著述。世俗倫理を著した学僧としては、江戸時代随一であ る。本書は、徳龍の講話をもとに編集されたもの。

25 『大方広仏華厳経』(黄檗版大蔵経) 全276 帙のうち

紙本木版 江戸時代 大谷大学図書館蔵

丹山順芸(1785~1847、越後国浄勝寺)が文政8年(1825)より10 数年の歳月をかけて、建仁寺蔵の高麗版をもって校合した黄檗版大蔵経。 朱で異同を記す。

26『歎異抄聞書』 1冊

紙本印刷 明治時代 大谷大学図書館蔵

妙音院了祥(1788~1842、三河国満徳寺)が著したもの。了祥は厳密 な実証主義に基いて研究をすすめた。『歎異抄』は従来、本願寺2代如 信の作とされてきたが、これを河和田の唯円の作と推定した。

27 『八洲日暦』 全 160 冊のうち

紙本墨書 江戸~明治時代 大谷大学図書館蔵

小栗柄香頂(1831~1905、豊後国妙正寺)の日記。安政5年(1858) から明治37年(1904)にかけて書かれた。香頂の主な業績の一つは中 国布教である。展示箇所は明治6年(1873)中国へ留学した時の記録で、 在地の言語や風習などを書き留めている。

28「香山院龍温像」 1幅

組本著色 大正時代

第15代講師樋口龍温(1800~85、京都圓光寺)の肖像。元治2年(1865) に任じられた。明治維新に際して東本願寺学寮を率いる立場で活躍。仏 法擁護とキリスト教研究を行った。

Ⅲ 護法場の開設

29 『上首寮日記』 5冊のうち

紙本墨書 江戸~明治時代

キリスト教の急速な浸透にともない、慶応4年(1868)に開設された 護法場は、学寮の敷地外にある越中国・井波瑞泉寺の京都屋敷(高倉上 馬場) に設けられた。

30 『護法場随筆反古類集冊』 1冊

紙本墨書 明治時代 大谷大学図書館蔵

護法場開設に至る門首の直命や、その意義を説いた演説の草稿などを記 す。香山院龍温の筆。演説の中で龍温は、「天文外暦者」「天主耶蘇の邪徒」 などを「対治」するため、真宗・仏教学以外の学問(外学)の研究と教 育を行う必要があると説いている。

31「護法場規定並規則」(『明治初期東本願寺雑記』) 1冊 紙本墨書 明治時代 大谷大学図書館蔵

護法場の学科目。国学(国学全般ならびに和歌や和文、神道諸流)・儒学(儒 学全般ならびに漢詩文や経済)・天学(天文地理や数学、暦学)・洋学(キ リスト教の教義と歴史)という四つの外学が教授された。仏教外からの 知見で宗学を立て直そうという目的で講義が進められた。

32 『天路歴程』 1冊

紙本印刷 中国・清時代 大谷大学図書館蔵

護法場で教授された、真宗・仏教学以外の学問である外学のテキスト類 の一つ。ジョン=バニヤンの寓意小説。一人のキリスト者の歩みを、苦 難にみちた巡礼の旅に託して描いたもの。日本では明治19年(1886) に初めて翻刻され、広く読まれた。

33 『馬太福音書』 1冊

紙本印刷 中国・清時代 大谷大学図書館蔵

護法場で教授された、真宗・仏教学以外の学問である外学のテキスト類 の一つ。新約聖書第1書。誕生から宣教活動、受難を経て復活顕現に至 るイエスの生涯を、マタイの視点に基づいて述べたもの。